京都市学校歴史博物館だより

VOL. 15

平成19年1月発行

正門，石塀は，国登録文化財

企画展 昭和の思い出と子どもたち

～新小学校教育制度60年と教科書～

第二次世界大戦をくぐり抜けた日本が，新教育制度を発足させて早くも60年が経ちます。昭和という時代，特に戦時中から終戦後の混乱期，そして高度成長期は子どもにとっても激動の時代でした。

今回の企画展は，小学校に残された昭和20年の京都空襲の爪痕を背景に，特に学童集団疎開について，当時の子どもたちの体験を思い起こしていただきます。戦後の昭和22年の教育改革により，現在の教育制度の土台が築かれましたが，実験学校と呼ばれたモデル校の取組みや，各小学校が競って考案した新教育プランのさきがけを紹介し，戦争を乗り越えた教師や子どもたちの新しい教育にかける意気込みを感じていただければ幸いです。そして高度成長期の生活の変化は小学校生活を豊かにしました。給食メニューの変遷や，プールの竣工の様子を御覧下さい。また，当館が所蔵いたします戦後の教科書と教具を，体験コーナーに所狭しと並べましたので，きっと小学生時代に戻っていただけるものと存じます。

■ 開催期間

平成18年12月8日（金）～平成19年4月16日（月）

午前9時～午後5時　（入館は4時30分まで）

休館日　水曜日　（休日の場合は翌日）

■ 今回の企画展を準備するにあたって

戦後，昭和20年から40年代の小学校の姿や子どもたちの日々の活動の様子を物語る資料を求めて，近隣の小学校で，資料室や教材保管室の調査をさせていただきました。その結果，当時の様子を物語る教材や教具類が非常に少なくなっていることがわかりました。特に，終戦時から昭和20年代についての資料はほとんどなく，その時期については，当時学校に在籍されていた先生方から直接当時の様子をお聞きしました。お話の中から，新しい憲法・教育基本法の下での新しい教育のあり方を求めて，若い先生方を中心に，日夜遅くまで話し合い，食料や生活物資さえ乏しい中で，教材や教具を準備しながら情熱を持って活動されていた姿や，貧しさにも負けずに元気に成長していった児童たちの姿が浮かび上がりました。一方，昭和30年代以降については，各校から数点ずつの教具類を選び出し，ようやく数十点をまとめて借用することができました。今回，それらを教科書や写真とともに展示し，戦後の新しい小学校教育が歩んできた姿を振り返ってみたいと思います。

博物館主事　山内　新平

企画展　おもしろおすなあ 京の町
～美術工芸品にみる京のあちこち京のあれこれ～

特別講演会『徳力富吉郎を語る』より

語り手　京都版画館　徳力淑子氏

作品について説明する淑子氏

平成18年11月12日（日）関西文化の日に当館において企画展関連事業として，徳力淑子氏による特別講演会を開催いたしました。徳力淑子氏は，京都の風景を数多く描き，企画展「おもしろおすなあ京の町」（9月29日～12月4日）における京都の魅力を再発見する出展作品の一つ『伏見人形を売る店』の作者である故・徳力富吉郎氏（1902～2000）の奥様であり，現在も伝統の日本版画を残すためにご尽力されています。

和やかな会場内の様子

講演会では，富吉郎氏の略歴に沿って主な作品や著書などを紹介しながら，お話を進めていただきました。「親鸞聖人伝絵」に代表される西本願寺絵所としての仕事のことや，初期の日本画作品のこと，版画に本格的に取り組んで『版』や『大衆版画』を刊行，版画製作所を起こし，膨大な数の質の高い作品を作り続けた晩年までの思い出を語っていただきました。また，京都市立学校や幼稚園に所蔵されている富吉郎氏の作品や京都版画館からお持ちいただいた作品のエピソードなどもお話しいただきました。2本のビデオの放映では富吉郎氏の肉声を聞くことができ，聴講者には，氏の版画への想いを強く感じていただけたことと思います。そして，多彩な人々との交流や，古版画研究や造詣の深かった茶道のお話は，この場でなければ知ることができなかったと思われます。終始，和やかな雰囲気だった今回の講演会は，年譜には載ることのない富吉郎氏の一面が伺え実りあるものとなりました。聴講者には，講演会終了後も会場内の展示資料を見ていただき，身近に徳力富吉郎氏の作品に触れていただきました。

◆ 企画展『おもしろおすなあ　京の町』に寄せて ◆

学芸員　秋山美津子

「おもしろい」の語意は，現代語では「滑稽だ」の意味が勝ってますが，この企画展では古来からの「心をひかれるさまである」「情趣がある」という意味で出品作品を選んでいます。市立学校所蔵作品から多くを選ぶので，観光名所や年中行事を全て網羅できたわけではありませんが，観覧者の京都に関する知識が深まること請け合いです。さらに，水質が自然の状態に近いと考えられ，京都市が水質調査を行っている「沢の池」などは，知る人ぞ知る静かなたたずまいの名所で，まさに京都の魅力を再発見していただけたものと思います。

版画作品，原画，著書，アルバムなども展示された講演会場

この企画では，展示作品は，色と形で構成される芸術作品としてより京都に関係する事柄が描かれているかどうかが重視されますから，リーフレットには描かれた場所や事物の説明を書くようにしました。ついては，市販のガイドブックなどを見ても情報が古いような気がしましたので，現状を確認するフィールドワークに出ました。休みのたびに市内を歩き，展示作品に見られる場所で，一度も行ったことがないという場所はなくなりました。

出かけて探しても，ここに立てば絵のままだという地点はありません。制作年から隔たりがあることによって風景が様変わりしていることもありますが，そのための現状確認でしたが，むしろそこで，そもそも作品が作家の眼と心を通して再構築されたものであることを改めて認識しました。そして，描かれた事物との細かい対比よりも，その場の持つエネルギーを感じ，作品に捉えられたそれぞれの場が持つ生命力は永遠であると感じました。それがこの度の大きな収穫でした。

市民参加・体験事業

絵の世界の奥深さに感銘　当館事業に参加の荒木美知代さん（中京区）

『上村淳之館長談話室』に参加させて頂くようになってから約１年半になります。申し込みの動機は，私が習っております「陶磁器上絵付け」の図案を考える上で，日本画を含む美術についての知識を得たいと思ったからでした。小・中・高等学校での必修科目としての美術学習時間しか経験のない私にとりまして，上村淳之館長のお話は絵の世界の奥深さを易しく楽しく教えて戴ける機会でした。映像で名画の数々をご解説頂いたり，海外の有名美術館・博物館でのご体験談に始まり，ご自宅の四季折々の花々・鳥類の生態についてお話下さっていますので，毎月一度の１時間を充実した空間の中で過ごさせて頂いております。近頃では「絵付け」教室でも以前の“全くの模倣”から徐々に“独創的部分を取り入れた作品”を目指しております。

そして昨年の夏，思いがけず，素人の私の図案を祇園祭の“山”の手拭いとして採用して頂くという幸運に恵まれました。現在住んでおります蟷螂山町では，一昨年より「町内関係者限定の手拭図案公募制」が始まりました。昨年，私も初めて応募させて頂きましたが，未熟な作品故に「再提出を。」と蟷螂山保存会の皆様方が機会を下さいました。新旧役員の方々のご助言をもとに書き直しておりました時，一昨年の京都市学校歴史博物館での特別対談『近代日本画のあゆみ』にて「例えば鯉を描く時，水面の鯉と作者が一体化する。」と上村淳之館長がお話なさっていたことを思い出しました。また，『談話室』で「日本画では象徴的表現にする時，背景は描かずに余白とする」とのご説明がありました。「蟷螂山」は中国の古典『淮南子』からの出典で，「蟷螂の斧を以て隆車の隧を禦がんと欲す（文選）」に由来しますが，この「蟷螂」即ち大かまきりには館長のおっしゃった“象徴的表現”が必要なのではと考えました。試行錯誤の末，「蟷螂山のからくり人形」と実際のかまきりのイメージから“私自身のかまきり”を描き出すことができました。ＰＣ音痴故に全て手描きで制作しましたが，かまきりの触覚部分はたった２本の細線とはいえ，生命力を表現できるように勢いよく伸ばしたつもりです。これには以前，面相筆の扱いも教えて下さると伺い参加させて頂いた京都市学校歴史博物館の『日本画運筆教室』での授業が大いに役立ちました。

荒木さん作成の祇園祭の手拭い・Ｔシャツの図案原画　（蟷螂山保存會所蔵）

昨年の宵山期間中，その図案の手拭い（白地・紺地）及びＴシャツは，町内の皆様方のお陰で完売したそうです。勿論私自身も家族に笑われる程多く購入し，友人知人に配りました。ある友人から「図柄に貴方のお人柄が表現されていて良かったわ。」とのお便りを戴いたり，又ある友人からは，ご主人で中国文学研究の先生が中国旅行の際にＴシャツを着用され，「“かまきりの地元”で人気者になりました。」と知らせて戴いたりして，心に残る夏となりました。昨年の幸せな出来事は，『談話室』や『日本画運筆教室』で学ばせて頂けたからこそと，上村淳之館長はじめ先生方には大変感謝しております。また毎回準備にご腐心下さいます職員の皆様方，展示室で温かく迎えて下さる市民学芸員の皆様方，京都市学校歴史博物館でご縁のあった皆様方にも心よりお礼申し上げます。そして今後共どうぞ宜しく御願い致します。

京都市学校歴史博物館では，市民の生涯学習や児童生徒の学習活動の一助として「市民参加・体験事業」を行っております。

『上村淳之館長談話室』

『日本画運筆教室』

ボランティア市民学芸員の声

「市民学芸員として思うこと」

学校歴史博物館　市民学芸員

安岡 文子

学校歴史資料の調査員として主に市立幼稚園の資料調査に関わる中で，多くの宝物に出会う楽しさを経験したことから，学校歴史博物館にボランティアとして参加してきました。京都に生まれ育った私にとって昔の京都の学校の数々の宝物は，幼い日に戻ったような懐かしい気持ちを感じさせてくれます。来館者の多くの方が，二宮金次郎像や多くの写真などから感動を新たにされていることと思います。明治の初め，京都の人々が，教育を重視し地域の力で学校を設立しようと，「竈金」を基金に番組小学校を開校させました。明治2年，我が国最初の試みは，「京都再生」を「人づくり」からという強い願いから成就させた様子が残された資料を中心に展示されています。次に教科書展示も来館者に関心が高いコーナーです。その中で戦後，教科書が墨塗りされていたことを，「どうして今までの教育が180度否定されて墨塗りが行われたのですか？また生徒が自分で墨を塗ったことが理解できない。」と若年の来館者が感想を述べられ，昭和の時代に戦中戦後の教育を受けた私は，若い人に現在の平和な教育に至るまでの移り変わりを語り継ぎたいと思います。学校歴史博物館に他府県から来られた方が，「京都は素晴らしい宝物がいっぱいありますね。」と感心して帰られたり，企画展と常設展が各々内容が豊富なため，もう一度来館したいと言っておられた方もあり，この学校歴史博物館の所蔵品の奥深さを感じているこの頃です。

昔の学校あれこれ　第八回

「郊外学舎」

明治36年（1903），教育後援機関として生まれた有隣教育会は，地域全体の取組みとして地域住民の資金で運営され，小学校とともに児童の教育活動を支援してきました。教育環境改善策の一つとして自然の多い広々とした郊外に学舎を設け，実物教育・実践教育による体力・気力の増進を図ろうと郊外学舎建設準備委員会を発足し，数次にわたる実地調査の末，昭和18年（1943）5月，京都市北区鏡石に有隣校鏡石郊外学舎を開設しました。この郊外学舎は，自然観察や体験活動の場として幅広く活用され，児童は明るくのびのびと学校生活を送りました。有隣小学校が閉校した現在も統合校である洛央小学校の児童を中心に引き続き活用されています。

写真左　有隣校鏡石郊外学舎　昭和23年（1948）

【植柳小学校蔵】

京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町仏光寺通下る橘町437（元開智小学校）
〒600-8044

●入館料/大人200円　子ども（高校生以下）100円
（20名以上の団体/大人160円　子ども80円）
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
●開館時間/9：00～17：00（入館は16：30まで）
●休館日/水曜日（休日の場合は翌日）
12月28日～1月4日

時を超え 美しく ひと輝く　歴史都市・京都

交通　ACCESS

●阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
●地下鉄/烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
●市バス/「四条河原町」バス停下車 河原町通より西へ二筋目（御幸町通）より南へ歩5分